

足の外科

足部は片足で26個と体全体の骨が約200個と考えるとかなり多くの骨が存在します。加えて、筋肉や腱が多数存在し、さらに人間は通常二足歩行することからかなりの負担を受けながらも形状を保ちつつ機能しているという複雑な構造をしています。そのため、足部・足関節の症状には様々な原因が考えられます。しかし、専門医が少なく正確に診断されていない症例や適切な治療が行われていない症例、見逃され放置されている症例も多く存在します。

足の症状は膝など他の部位と比べ、患者様自身が諦めていることも多いのが現状です。そうした状況をリハビリや装具などの保存治療、必要に応じて手術治療を行うことで改善していくことを目指しています。

足外科の手術例

手術せずに改善を望める疾患に関しては保存治療を行い、手術が必要な症例には外科的治療を検討させていただきます。

下肢外傷、骨折（特に足部・足関節）、外反母趾・変形性足関節症を含めた足部変性疾患の手術を得意としています。

外反母趾 手術例



Lapidus変法

Long chevron + Akin

脛骨遠位骨切り術



観血的関節固定術



人工足関節置換術



鏡視下関節固定術

